

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	ケアサポート・ワンズホーム	評価実施年月日	平成19年5月1日～平成19年5月10日
評価実施構成員氏名	梅本 有美 上総 智恵 六日市 美智子 前田 一枝 酒井 広恵 谷向 雄太 古川 恵美子 鶴野 百香 樋口 尚子 中村 久美子 内潟 朗子		
記録者氏名	松山 奈美子	記録年月日	平成19年5月20日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「ゆっくり、いっしょに、たのしく」をモットーにあたりまえの生活ができるようにという理念を作成し、玄関、事務所に掲示し、実施できるように月1回ミーティング時読み上げ再認識するように心がけている。人間性を重視し、利用者の立場で考える。地域の行事に積極的に参加する。		「ゆっくり、いっしょに、たのしく」がモットーなので持続できるように利用者と共に励んでいきたい。地域の中で暮らしていくという理念を取り入れた方が良いと思う。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員間で何をどうすれば良いのか話し合い、日々取り組んでいる。職員は利用者さんの立場で考え行動し、生活が満たされるものとなるよう理念を共有し、取り組んでいる。本人のみならず、家族との連携を密にする。		理念を全職員が熟知し、実践の向上に向けて取り組み、継続していきたい。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念は玄関に掲示してある。家族来訪時には、日々の状況説明を行っている。ホームダより、月別メニュー表の送付。		家族との話し合いはできるが、地域の人々と話し合う場がない。より一層、地域の人々に理解して頂けるようコミュニケーションをはかっていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩にでかけ、道路で行き合うと笑顔で気軽に挨拶し、コミュニケーションを図るよう努めている。野菜畑を作り、協力して頂いたり、収穫したものをおすそ分けしたりしている。		現在、隣近所との関係が日常的につきあいができているとは言えず、ごく一部の家庭との付き合いにとどまっている。他の家庭にもホームを地域の一員として交流してもらえるよう、コミュニケーションを図る必要がある。庭でのバーベキュー等に参加を募り、交流を図っていきたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会行事、新年会、花見に積極的に参加している。		新年会、花見への参加で他の交流は殆んどないため、他に参加可能な行事を見極めながら参加したい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	まだ、地域に貢献できていないと思う。地域の高齢者を対象とした活動にまで及んでいない。		回覧板等利用して、日常生活の中で役立つであろう事を情報発信すると良いのかもしれない。地域で介護に悩んでいる家族があれば、いつでも相談にのり、手助けをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	年1回外部評価をし、改善に取り組んでいる。		全職員が理解し、評価を活かして日々の介護にあたっていきたい。
8 運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を実施した。その中で話し合った事をミーティングの際、職員間で話し合いを行っている。		運営推進会議を理解し、具体的サービスに活かせるようにしたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。			取り組めるよう努めたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員は制度に対し、理解していると思うが支援まではしていないと思う。管理者は実践できていると思う。		職員も学ぶ機会があったら良いと思う。必要な人には活用できるよう支援していきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	講習会等を利用して学んだことを報告し、お互いに日々、注意意識換気をしながら防止に努めている。職員間の虐待防止に努める目は厳しい。TV、新聞等で報道されるたびに心が痛む。		より一層、理解を深め、虐待が行われないよう防止に努める。職員は真剣に理解していると思う。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が十分な説明をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見、苦情、不満等は、ミーティング時等、常に職員間で連絡、連携を密にしている形が自然に出来上がっており、記録もなされている。、外部者を認識できる状況にある。玄関に意見箱設置。		管理者が対応。意見、不満などがなく、気持ち良く生活出来る場にした い。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族との懇親会を実施、ワズホームだよりの発行。家族が来所時には日々の様子を説明し、病状変化時(精神的、肉体的)には、電話連絡をしている。		今後も継続、実施する。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族との懇親会を開催し、家族の方々の声を聞くように務めている。家族が来所時、意見交換し、希望も聞き、取り組みに反映させている。		不満、苦情は言いにくいと思われるので、文章で申し出る方法がないか考えたい。家族との顔合わせの機会を多くもっていくべきだと思う。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日、毎朝のミーティングの機会を有効活用し、多くの意見、問題点を提案しており、質の向上を目指して改善されていることも多い。		大事なことは全職員が理解出来ていたらより良いと思う。今後も継続、実施につなげていきたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	その都度、話し合いをもとに調整を行い、必要な人員を確保できるよう努めている。職員間で気づいた点は、報告、連絡、相談がされ創意工夫し、人員確保に努めている。		上手く行くように、全職員で今迄以上に協力し合っていきたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	個別に馴染みの職員が支援しているので、利用者に対しダメージは少ないと思われる。		業界全体に難しいと思われるが、質の高い安定した人員確保が望まれる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>積極的に研修に参加し他の職員に実践的に(日常において)報告しており、職員間での向上心がみられ効果があらわれている。サービスの質の向上に取り組んでいきたい。</p>	<p>職員間での試行錯誤はあるが、適切なアドバイスやレベルにあわせた指導があれば より好ましい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>講習会等で同業者との交流はあるが、今後積極的に取り組みたい。</p>	<p>相互訪問を取り入れ、意見交換、サービスの質の向上に努めたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員休憩室があり、1時間の休憩で体を休める時間を確保している。</p>	<p>職員の動向、思考を踏まえ、意見交換できる機会を増やしてほしい(個別面談)。利用者中心の職場である為、職員のストレス軽減にまで及んでいない。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>資格取得や講義への参加ができる。</p>	<p>個々の仕事に対する考え取り組みによって向上心は違うと思うし、チームプレーもあるので、全員が向上心を持てるような職場作りをしていきたい。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に体験してもらい、雰囲気を感じて頂くと同時に家族本人より可能な限り傾聴し受け止めている。入居初期段階より積極的コミュニケーションを図り、情報把握する努力をしている。話は落ち着いてゆったりした気持ちで聞くようにしている。</p>	<p>相手の気持ちを受け止められるよう努力したい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>面会、訪問は自由であり、来所時に話しかけコミュニケーションを図り、理解に努めている。</p>	<p>何を求めているのか傾聴し、できないのポイントを定めて回答する。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その都度、今後どのように支援したらよいか、見極め、職員と本人がよく話し、観察して臨機応変に柔軟な対応をしている。職員間の連携も良く取れている。		今後も継続していきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居する前にホームの生活を体験して頂き、雰囲気になじめよう工夫している。本人、家族と話し合い、協力して頂き、サービスに努める。視線を合わせた声掛けに気づけている。		不安な気持ちにさせないよう新しい方には特に配慮しながら声掛けをしていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	お手伝いできることは手伝って頂き、わからないことは教えて頂き、逆に支えて喜ばれていることもある。職員が「共に生活している」意識をもち、会話がなくなるよう心がけ信頼関係を築いている。		センター方式をもとにサービスが一方向的にならないよう相手の話をよく聴くよう心がけている。本人のペース、喜怒哀楽を共に支えあえる関係でいられるよう継続していきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族が来所時には日常の出来事、体調等を小まめに報告している。心のケアについては家族に支援をお願いすることもある。ホーム便りの送付、イベント・誕生会(各々その日に家族の来所あり)の機会を設けている。		入居後、足が遠く家族もいるので、本人、家族、職員を交えて、花見、焼肉パーティー等を催すともっと関係が密になりより良い関係が築かれると思われる。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	ホームに入居された事で疎遠にならないよう連絡、報告等うまく橋渡しできるようアプローチしている。情報発信を定期的に行ない、本人、家族から傾聴する努力を行ない、要望、情報の共有化に努めている。		信頼関係が築けるよう努めている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	以前住んでいた近所の方、友達、親戚等来所時、居室で談笑していただき再来所を促がし、帰所時は玄関まで行き見送っている。外出を促がす対応が少ないと思われる。		馴染みの関係が途切れることがないよう支援に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	居間の長椅子に座る時は気の合う人・合わない人がいるので気配りをして座って頂き、一緒に楽しく過ごせる時間を増やすように努めている。		レクリエーション等を工夫して、皆が楽しめる時間を作るよう努力していきたい。共通の話題を提供し、孤立することなく支えあえるよう努力していきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	顔合わせをしたことがあったり、ホームに関係のある方々にお会いした時には挨拶をし、途切れないようにしている。		関係を断ち切らないように付き合いを大切にしていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護計画やセンター方式をもとに把握に努めている。本人の希望を第一に考えて介護に努めている。		利用者さんと関わる時間を増やし、多くの思いを汲み取れるよう努力していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を取り入れたことで、より生活歴や馴染みの暮らしが見えやすくなった。職員は個人の情報把握に努め理解し努力している。		センター方式をもっと活用できるよう勉強していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個人ファイル、ミーティング、引継ぎ等で総合的に把握している。個人の興味、得手不得手を見極め、日常生活の中で一緒に取り組む姿勢を保持している。		変化が生じた場合、すぐに対応できるよう努力していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ミーティング等職員間で話し合い、家族の方と確認の上、計画を作成しているが、時として介護者側から一方的意見になる場合もある。		計画作成時、本人が参加できる場合は参加して頂き、職員間でもアイデア、意見を反映できる場があれば、より好ましいと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間、状況に応じて見直しを行ない、現状に即した計画を作成している。		見直しが必要な場合、変化に応じた新たな計画を作成できるように取り組んでいる。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々個人ファイルに細かく記載し、情報を共有し合いながら、実践に努めている。		日中の様子をもっと詳しく個人記録に書き、ケアプランを活かした記録となるよう努力していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	病院との連携で定期的診療を受けている。		緊急時にすぐ対応できるように病院との連携を密にしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	書道の先生来所(月1回)、ボランティアさん来所等地域資源を活用し、文化活動等へ参加している。		もっと多くの利用者が日々楽しめることを考え実施していきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	希望があれば支援している。		個人が色々なサービスを利用できるようになると望ましいと思う。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターの見学あり。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>毎月の定期往診の他、体調不良者には柔軟な対応をしている。本人、家族の希望に応じ適切な医療が受けられる支援をしている。</p>		<p>緊急時すぐ対応できる病院との関係を密にしていきたい。</p>
<p>44 認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>月2回の定期往診、変化時にも対応して頂けるかかりつけ医がある。</p>		<p>病状が悪化しないよう努めていきたい。</p>
<p>45 看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護職が常勤しているので相談しながら支援している。</p>		
<p>46 早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>早期退院できるよう病院と連携している。</p>		
<p>47 重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>その都度早めに話し合い実施し、情報の共有に努めている。</p>		<p>スタッフ全員が方針を理解した上で、その利用者に対して最善のケアをしていきたい。</p>
<p>48 重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>変化に備えて話し合い、見極め支援できるよう努力している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人、家族との情報交換に努めている。		事前打ち合わせを密に行ない、本人のダメージにならないよう居室移動等納得の上、行っていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個々人の意思を尊重し丁寧な声掛けを心がけ、プライバシーを尊重している。個人ファイルの取り扱いには配慮している。		友達感覚で失礼にならないよう努めている。(親しき仲にも礼儀あり)
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	一人ひとり判断できるゆっくとわかりやすい会話を心がけ混乱しないよう努めている。		利用者との関わりを多くもち意見を汲み取る工夫をしている。利用者さんがわかりやすい様な声かけ説明を心がけている。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者さんの動きに合わせた介助を最優先し、職員間で声かけ合っている。		利用者のできる所は手伝って頂き、本人のペースを大切にできるようゆとりのある支援をしたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	訪問、来所に対応できる美容室があり、概ね2ヶ月に1回整髪支援している。洋服も古くなったら買い換える支援(こだわりが強くてできない場合もある)		普段でも口紅等でおしゃれをしてあげたい。担当を決めて個々の管理をしていきたい。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は楽しみにしており、下ごしらえ、盛り付け等手伝って頂いている。職員は利用者と同じメニューと一緒に食べている。		楽しく会話しながら準備、片付けの場をもちたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	煙草は好きな時間に決まった場所で喫煙できるよう支援している。買い物にいけない利用者には嗜好を聞き支援している。パン屋さん来所、好みのものを選んでもらっている。		自分で買い物ができるよう定期的支援ができれば良いと思う。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	おむつ利用を減らし、気持ちよく排泄できるよう個人に合わせて支援している。		個人の状況の変化に応じ、臨機応変に支援していきたい。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一応曜日は決めているが、本人の体調希望に合わせ無理強いせず対応している。		集団生活である為、難しい場合もあるが、午後からの入浴で希望に添うよう努力している。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個人の生活習慣に合わせて本人が眠たいというまで待って個別に対応している。夜勤時には音がでないようモップスリッパを使用している。		安眠できるよう支援していきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	畑、庭仕事、植物の世話、書道、飲酒、喫煙、散歩、犬のえさ等役割楽しみを持てるよう支援している。外食、ドライブ等で四季を感じてもらう。ゲーム、イベント等取入れ笑顔が見られるよう支援している。		個々にできる役割を考え(負担にならない程度)張り合いが持てるように支援をする。気晴らしになるような行事、レクリエーションの工夫をしていきたい。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	必要な物、欲しい物がある時は、家族との外出、職員との外出、頼まれたときは購入し、利用者の状況に応じて可能な限り支援している。		もっとお金を使える場を作っていきたい。
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、コンサート、外食等で外出の機会を設けている。希望が満たされるよう努力している。		声掛けの工夫で、皆が外出できるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>年1度希望者を募り、温泉1泊観劇鑑賞をしている。外食、花見、芸術鑑賞等出かける機会を設けている。</p>		<p>普段の会話より聞き出す工夫をして、特に夏場は増やしていきたい。</p>
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p>	<p>居室に電話を付けている人もおり、家族との手紙のやりとり、贈り物が届いたときは写真を撮り葉書にしてお礼をしている。本人が書けない時は職員が手助けしながら本人自筆で完成できるよう支援している。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>居室でゆっくり談話できるよう支援している。お茶を持っていき、職員も交えて談笑の場を作っている。面会、訪問は自由であり気軽に来所されている。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>本人の嫌がる行為はせず、意向を確かめ支援するよう心がけている。講習会等へ積極的に参加している。身体拘束は行っていない。入居前つなぎ服を着用していたが、中止により失禁はなくなったが脱衣行為はある。</p>		<p>より一層の理解を深めたい。</p>
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>人の出入り、人員把握に努めており、鍵をかけないケアを実践している。</p>		<p>今後も継続していく。</p>
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>常に目配り、気配り、声を掛け合い所在の把握に努め、安心、安全な生活の構築に努めている。</p>		<p>職員は利用者さんの目の届く位置にいるよう心がけている。</p>
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>利用者さんの目の届かない場所に置くよう心がけ危険回避できるように 全職員が配慮、管理している。</p>		<p>今後も継続していく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>防災訓練は年2回実施しており、常に気を配っている。職員間での事例検討、研修報告等を通じ、実践の中で知識の向上に努め、状況を把握しながら事故防止に取り組んでいる。管理者は防火管理者の講習を受講している。</p>		<p>職員のレベル向上と同一化を図れるよう意見交換を頻回にできる環境を整える。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>外部講習を利用し、知識の向上に努めてはいるが心肺蘇生法の活用を全職員が理解応用されるまでには至っていない。</p>		<p>緊急対応を全職員ができるようレベルの同一化に向けた努力が必要と思われる。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年2回避難訓練の実施。運営推進会議で町内会長より地域に認識されてきているので応援したいとの言葉を頂いている。</p>		<p>避難方法を身につけ地域の方々の協力が得られるよう働きかけを行いたい。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>主にホーム長が家族に説明しているが、職員に於いても必要時説明し対応している。</p>		<p>今後も継続していく。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日のバイタルチェックで体調等に常に気を配り情報交換し対応に結び付けている。入浴前にも再度バイタルチェックを行ない中止の場合もある。</p>		<p>常に連携を密にして対応していきたい。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方箋ファイルがあり薬の目的を理解し把握に努めている。服薬時、目が不自由な人、こぼしそうな人は口元へ誘導している。誤薬予防の為、配る人、飲ませる人と再チェックをしている。</p>		<p>今後も継続していく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便状況をファイルに記入し、予防と対応に取り組んでいる。繊維食品を取り入れ予防に努めているが、運動量が少なく下剤にたより気味の所もある。		テレビ体操、散歩等に力を入れ下剤に頼らない対応を心がけたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアは起床時、就寝時、食事後実施している。口腔ケア研修会にスタッフ3名が参加している。入れ歯は入れ歯洗浄剤で洗浄し衛生管理している。		職員の誘導、助言、確認を行ない口腔ケアに努めていきたい。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士の献立にて栄養バランスの管理をしている。利用者に応じた食事量、形態、水分量を確保し支援している。本人の嗜好等にも配慮工夫している。		水分摂取は、嫌がる傾向にあるため、種々の飲料を用意し対応していきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は毎年秋から初冬に実施している、肺炎予防接種も行っている(5年間有効)。感染マニュアルがあり予防を実行している。		食前におしぼりで手を拭いて頂いている。具体的対処方法を再検討したい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	賞味期限を守り、新鮮なうちに調理するよう心がけている。食器、まな板等の消毒を徹底し、衛生管理に努めている。		清潔の保持、増進に努める。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先にプランター、植木の設置、玄関内には花を飾っている。建物周囲に庭を作り親しみやすい工夫がされている。圧迫感がなく、玄関は日中開放され自由な出入りになっている。犬を飼っている。		親しみやすいホームでありたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関、居間、食堂など季節感が感じられるようお雛様、5月人形等飾っている。居間には大勢集まれるよう長椅子がたくさんあり、利用者同士談笑できる工夫をしている。		季節感を取り入れる配慮を継続したい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	長椅子を配置、畳の空間もあり、昼寝をする人もいる。いつでも、誰でも自由に過ごせる空間が確保されている。		利用者さん同士仲良くできる気の合う仲間を見つけ交流を深めてほしい。
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたタンス等も配置し居心地よい居室にして、すぐ住み慣れるよう支援している。		これからも馴染みの物の中で生活して頂けるよう支援していきたい。1泊できる部屋があったらいいと思う。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	掃除時、窓を開け換気を行っている。居室は希望に応じ換気に努め対応している。温度計各居室に設置。冬場暖房時加湿器設置。居室は湿度保持の為にぬれタオルを置いている。		継続していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーで、廊下、風呂、トイレ等手すりを設置し、安全に配慮している。エレベーターが設置されている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱しないよう配慮に心がけている。		自立して暮らせるよう支援していきたい。
87	建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花畑、野菜畑を作っている、犬を飼っている、庭にベンチを置きパークゴルフができる工夫をしている。バーベキュー、花火等を楽しんで頂き、時には参加し、活躍して頂き共に生活している環境の提供に心がけている。		職員も一緒に楽しめる空間作りを行いたい。

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

家庭的である。3度の食事は利用者さんが喜んでくれる食べ物を提供するようにしており、美味しいとの評価を頂いている。好き嫌いを職員が把握し不愉快な気持ちにさせないよう配慮している。利用者、家族とのコミュニケーションを図り、職員、利用者さん同士仲良く暮らしている事。利用者さんが笑顔で楽しく生活できるよう日々取り組み支援している。職員も一緒に楽しみ笑顔を増やす。